

## 今までに学んだ書物は？

2023年8月24日～

「ジュネーヴ教会信仰問答」カルヴァン著

本書は、スイスのジュネーヴで宗教改革を行ったカルヴァンが、1542年に子供たちの信仰教育のために作成した教理問答書です。カルヴァンは、墮落し、迷信や魔術的儀式に支配されていた当時のカトリック教会の状況に対して、御言葉に基づく教育こそが信仰を育て上げるのだと考えました。また、教会が契約共同体であり、その信仰が大人から子供たちへと継承されていくものである以上、教会の子供たちに対する教理教育は、教会の健全な成長にとって欠かすことができないと考え、本書を作成しました。「教理」や「信仰問答」というと、神学に関心のある一部の人間の知的営みであるとの偏見もあります。また、教理を強調すると、「聖書を軽視している」との批判を受けることもあります。しかし、教理は決して聖書を軽視するものではありません。教理は、私たちが聖書をより正しく知ると共に、主にあって一つの体、一つの霊とされている教会の信仰の一致のために欠かすことのできないものです。その恵みを覚えつつ、私たちもジュネーヴ教会信仰問答から学んで行きたいと願います。

2023年～

「巡礼歌 講解説教 詩編120—134編（含私訳）」 牧野信成著

本書は、現在、日本キリスト改革派佐久長野教会牧師である牧野信成先生が、神戸改革派神学校教授であった時、当時、無牧であった改革長老教会霞ヶ丘教会での毎月1回の礼拝説教奉仕で行った一連の説教をまとめたものです。本書で説教されている詩編120編から134編までの15の詩編は、「都上りの歌」と呼ばれ、祝祭のためにエルサレムにある神殿に上って行く巡礼者たちによって歌われた「巡礼歌」として知られています。しかし、著者が指摘しているように、「巡礼とは、神に向かって旅に出ること。人生の旅路にも喩えることができます」。私たち信仰者の人生も天国に向かっての巡礼、キリストが再び来られる終末的神の国の完成に向かっての巡礼です。そういう意味で、本書は詩編の「巡礼歌」の学びを通して、巡礼者である私たち信仰者に、大きな励ましと慰めを与えてくれます。また本書は、私たちの巡礼の旅であるこの世での信仰生活の意義を改めて教えてくれます。

2021年

「神さまと共に歩む道『子どもと親のカテキズム』解説」 牧田吉和著

本書は、2014年に日本キリスト改革派教会大会教育委員会より出版された「子どもと親のカテキズム」の解説本です。著者は、神戸改革派神学校の校長を長く務めた牧田吉和先生です。「子どもと親のカテキズム」は、教会の子どもたちの信仰教育のために書かれたカテキズムであると同時に、その子供たちを導く親や教会学校教師のためのカテキズムでもあります。そして、その特色はウェストミンスター小教理問答とハイデルベルク信仰問答の両方の良い点を取り入れている点、また、今までのカテキズムでは十分に触れられていなかった、この世界の中での教会の使命や社会的責任・文化的使命についても神の国の視点から語っている点です。その「子どもと親のカテキズム」の内容について分かり易く解説しているのが本書です。教会学校での学びだけでなく、教会員の教理教育にも非常に役立つ本です。

2019年～2020年

「ただ一つの慰め『ハイデルベルク信仰問答』によるキリスト教入門」 吉田隆著

本書は、世界の改革派教会の多くが教会の信仰告白としているハイデルベルク信仰問答について、その日本語の訳者でもある著者（現神戸改革派神学校校長）によって書かれたハイデルベルク信仰問答の解説本です。もともとは、北米キリスト改革派教会メディア伝道局の日本語部門であるCRCメディア・ミニストリーの月刊誌「ふくいんのなみ」に2008年から2014年まで掲載された「ただ一つの慰め—『ハイデルベルク信仰問答』の学び」を一冊にまとめたものです。ハイデルベルク信仰問答を通して、キリスト教信仰の教理の基本を学ぶのにとても良い本です。

2019年

『キリスト者から見る「天皇の代替わり」』 「教会と政治」フォーラム 編

今年の5月1日に天皇の代替わりが行われました。これに関して行われる儀式等には「日本国憲法」の理念とは異なるものがあることが指摘されています。この書物ではキリスト者の立場からその問題点を指摘されています。日本において政教分離、信教の自由について考えるための学びです。弓矢健児牧師も執筆者の一人です



2019 年

わが故郷は天にあらず』 ポール・マーシャル著

キリスト教の有神論的世界観に立つキリスト者の生き方について 具体的な問題を取り上げ、著者の体験等にも触れながらわかりやすく語ってくれています。この 本の題名は、キリスト者の目標がただ 救われるということにあるのではなく、救われた者は現実の世に遣 わされその中で神の民として生きるべきことを訴えています。

すなわち、「私の故郷は天にある」というのではなく、この世にあるキリスト者の役割について教えてくれています。

2018 年 8 月～

『キリスト者の世界観』 ウォルターズ著

聖書の教えに基づくキリスト教の有神論的世界観について現代の 問題にも触れ説いています。神の創造から終末に至る、創造、人間の堕落・罪、罪からの救済史、再創造、世界の完成への道、完成の 時としての終末について学び、その中で歩む人間あり方を考えました。